

植物防疫情報第4号

令和8年8月24日
岡山県病虫害防除所
岡山県植物防疫協会

果樹カメムシ類の注意報は継続中！

岡山県病虫害防除所の調査によると、7月5半旬～8月4半旬の赤磐市のチャバネアオカメムシ誘殺数は、予察灯で738頭（平年202.9頭）、集合フェロモンで2,863頭（平年1,495.2頭）となっており、**引き続き発生は多くなっています。**

広島地方気象台が8月20日に発表した1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされ、ほ場での発生が増加する恐れがあります。

果樹カメムシ類の発生動向に注意し、発生が見られるほ場では防除を徹底してください。

<防除対策および防除上の参考事項>

- 1 果樹カメムシ類は、もも、ぶどう、なし、かき、かんきつ等の果樹類の果実を加害し、成熟期においては、奇形果、吸汁痕による果実品質の低下等の被害を与える。
- 2 果実が肥大し、果実袋と密着すると、袋の上からでも加害される恐れがある。
- 3 樹や園全体を目合い4mm以下の防除ネットで覆う。ただし、すでにカメムシが発生している樹については、ネットで覆う前に必ず薬剤による防除を行う。また、破れや隙間が無いかを確認する。
- 4 ほ場で果樹カメムシ類の発生を認めた場合、速やかに薬剤散布を行う（表1、2、3）。果樹カメムシ類は夜行性で、日没直後に園地に飛来し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効であるが、暗い時間帯での作業は注意する。
- 5 薬剤の散布にあたっては農薬使用基準を順守し、人畜、生活環境動植物への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。
- 6 作物によって使用できる農薬は異なるため、最新の情報に注意する。最新の農薬登録情報は、農林水産省ホームページの農薬登録情報提供システムで確認できる（<https://pesticide.maff.go.jp/>）。

<参考事項>

- 1 植物防疫情報第1号（令和8年4月28日発表）
- 2 病虫害発生予察注意報第1号（令和8年5月19日発表）

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。



表1 もものカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和8年8月18日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC ¹⁾ コード
	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	
アグロスリン水和剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	5回以内	3A ^{2) 3)}
テルスターフロアブル	収穫前日まで	3,000倍	2回以内	
ロディー乳剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	5回以内	
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	4A
スタークル/アルパ [®] リン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	
テッパン液剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28
キックオフ顆粒水和剤 ⁴⁾	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28/4A

1) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

2) 生活環境動植物に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用は避ける。

3) IRACコード3Aはピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

4) 有効成分がクロラントラニリプロールとジノテフランであることから、サムコルフロアブル10やスタークル/アルパリン顆粒水溶剤と併用する場合、有効成分の総使用回数を遵守する。

表2 なしのカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和8年8月18日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC ¹⁾ コード
	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	
アグロスリン水和剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	3回以内	3A ^{2) 3)}
アディオフロアブル	収穫前日まで	1,500倍	2回以内	
アディオ乳剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	
スカウトフロアブル	収穫前日まで	1,500倍	5回以内	
テルスター水和剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	2回以内	
テルスターフロアブル	収穫前日まで	3,000～6,000倍	2回以内	
ロディーWDG	収穫前日まで	1,000～1,500倍	2回以内	
ロディー水和剤	収穫前日まで	1,000倍	2回以内	4A
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
スタークル/アルパ [®] リン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	28
バリアード顆粒水和剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	
テッパン液剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28
キックオフ顆粒水和剤 ⁴⁾	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	28/4A

1) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

2) 生活環境動植物に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用は避ける。

3) IRACコード3Aはピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

4) 有効成分がクロラントラニリプロールとジノテフランであることから、サムコルフロアブル10やスタークル/アルパリン顆粒水溶剤と併用する場合、有効成分の総使用回数を遵守する。

表3 **ぶどう** のカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和8年8月18日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC ¹⁾ コード
	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	
スタークル/アルパ [®] リン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内（塗布は1回以内）	4A
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	
テッパン液剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28

1) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。